

J-BINGO in AGU: Japan Bridge for International Governmental Organization in AGU

J-BINGO in AGU:
Japan Bridge for International Governmental Organization in AGU

<プロジェクト・メンバー>

飯島 泰裕^{†1} 米山 明日香^{†1} 菊川 人吾^{†1・2} 塩崎 紘生^{†1}

Iijima Yasuhiro^{†1} Yoneyama Asuka^{†1} Kikukawa Jingo^{†1,2} Shibata Misuzu^{†1}

^{†1} 青山学院大学社会情報学部

^{†1} School of Social Informatics, Aoyama Gakuin University

^{†2} 経済産業省 イノベーション・環境局長

^{†2} Deputy Director-General, Economic and Industrial Policy Bureau

キーワード：国際公務員，国際機関，キャリアプラン

Keywords: International civil servant, International organization, Career plans

1. プロジェクトの実施背景と 目的

将来的に、国際機関を含む国際的なフィールドで働く日本人職員を増やすことが、日本全体として喫緊の課題となっている。そのため、青山学院大学社会情報学部においても、学生時代から国際的なフィールドで働く日本人職員との接触機会や国際機関などでのインターンシップの機会等を設けることで、国際機関職員候補を始めとした、国際的なフィールドで活躍できる人材の育成が必要である。

こうした背景があり、2015年度より、学生の国際機関等に対する興味や関心を高めるため、関係機関の協力を得ながら、講演会等を実施している（飯島他、2016）。これは学生達に対し、国際機関を含む、国際的なフィールドを将来の就職先の一つとして意識させ、それを通じて最終的には、国際的に活躍する日本

人を増やすことを目的としている。加えて、2016年度からは「プロジェクト演習入門Ⅰ／Ⅱ」、2017年度からは「プロジェクト演習Ⅰ／Ⅱ」、2018年度からは「特定課題演習」と年次進行により、各学年の演習科目で、選択テーマの1つとして扱うことにより自分のキャリアを考えると共に、より深く、国際的なフィールドで働く、日本人と関われる機会を創出してきた（飯島他、2017～2019）。

こうして、2018年度より各学年の学生が、何らかの形で本プロジェクトに関われる環境を構築してきた。しかし、2020年度はコロナ禍により、例年とは異なり、オンライン上の活動を中心に進めざるを得なくなった（飯島他、2020）。徐々に感染状況が落ち着き、制限は少なくなり、本年度は通常通りの活動ができた。コロナ禍でやむを得ず活用が始まったオンラインであったが、オンライン特有のメリットもあり、本年度は対面とオンラインの両方を使いながら、活動を進めてきた。本稿では、こうして実施してきた、国際

的に活躍する日本人を増やすことを目的とした、プロジェクトの進捗状況、今後の実施方針等について報告する。

2. 授業を通じた国際的なフィールドで活躍できる人材育成の取り組み

本年度は学部4年次に受講者がいなかったため、1、2、3年次及び修士1年次を対象に活動した。1年次には、国際機関の存在を意識させるため、「社会情報ナビゲーション」の時間を、2年次には「プロジェクト演習入門Ⅰ／Ⅱ」の時間を利用し、講演会を実施した。プロジェクト演習入門Ⅰにおいては、J-BINGOが選択テーマの一つであるため、選択の助けになるよう授業期間の初めに履修者全員に対して行い、プロジェクト演習入門Ⅱにおいては、J-BINGOテーマを選択した学生に対して、更なる学習機会となるよう2度目の講演会を実施した。それらを踏まえて学生たちは国際機関等でのインターンの実現に向け、国際的に働くことを理解するため、調査活動に取り組んだ。昨年度、プロジェクト演習入門でJ-BINGOに参加した2年次の中に、3年次でも引き続きJ-BINGOの活動を行いたいという学生が3名いたため、それらの学生については、本年度、飯島ゼミナールにおいてインターンの実現に向け活動を実施した。2年次での活動成果を活かし、さらに掘り下げた活動を行った。そして、昨夏に留学を終えた修士1年次1名も同様に飯島ゼミナールに所属し、留学体験を活かして修士論文に向けた研究活動を行った。

これらの各科目での活動に加え、月2回程度、J-BINGOプロジェクトに関係する、2、3年次及び修士1年次が集まるゼミを開催してきた。ゼミでは、お互いの調査等の進捗状況を共有すると共に、先輩から後輩に対し、調査活動等に必要ノウハウの伝達を図ってきた。本章では、講演会及び各学年における具体的な取り組み内容を記す。

2-1. 社会情報ナビゲーション、プロジェクト演習入門Ⅰ／Ⅱにおける講演会の実施状況

主に1、2年次を対象として講演会を開催した。1

年次には「社会情報ナビゲーション」の時間を利用して、リアルタイムでのオンライン講演会を1回実施した。2年次には、プロジェクト演習入門Ⅰでは履修者を対象に、社会情報ナビゲーションの授業内に開催したものの録画視聴、プロジェクト演習入門Ⅱでは、J-BINGOテーマ選択者を対象に、リアルタイムのオンライン形式にて講演会を行った。本年度の講演日時や講師等は表1の通りであった。尚、第1回の講演会では、90分の講義時間に2人の講師からご講演頂いた。

表1 2024年度の講演内容

回数 (実施日)	講師／講師の所属 役職 講演タイトル
第1回 (2024/5/14)	講師： 村上秀樹／国連工業開発機関（UNIDO） 東京投資・技術移転促進事務所次長 講演タイトル： 国連工業開発機関（UNIDO）の仕事・ キャリアについて
	講師： 近藤千華／UNDP アフリカ局 TICAD ユニット TICAD 連携専門官 講演タイトル： 国連開発計画（UNDP）の仕事・ キャリアについて
第2回 (2024/10/9)	講師： 近江佳永／ヒューマンリンク株式会社 人材・組織開発本部 人材・組織開発サ ービス事業部アシスタントマネージャー 講演タイトル： 開発・人事系コンサルタントの仕事・ キャリアについて

(敬称略)

また、講演会に参加した学生を対象に今後のJ-BINGOプロジェクトの取り組みに対する、参加意欲等を調べるため、各回授業後にオンライン形式でのアンケート調査を実施した。その結果、第1回講演会では社会情報ナビゲーション216名、プロジェクト演習入門Ⅰ148名、第2回講演会ではプロジェクト演習入門ⅡのJ-BINGOテーマ12名からの有効回答を得られた。

ここでは主に前期に行われた第1回アンケート（合計364名）について考察する。継続的にJ-BINGOプロジェクトに参加してみたいと思った学生は、「と

でも参加してみたい」「参加してみたい」を合わせると224名(約62%)となった(図1参照)。

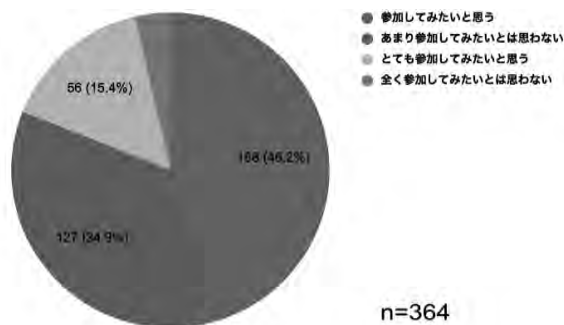


図1 J-BINGO プロジェクトへの参加希望

授業をきっかけに、国際機関でのインターンシップをしたいと思った学生は84名(56.8%)いた。また、国際機関や国際的なフィールドで、働きたいと思った学生は104名(70.3%)となった(図2参照)。この授業をきっかけにインターンをしたい、国際的に働いてみたいと思うようになった学生が、半数から3分の2を占め、講演会やJ-BINGOに関する授業内の説明が効果的である。また、本年度は授業内でJ-BINGOプロジェクトに関して、説明する機会を設けたことで、一定数の学生に、在学中に国際機関でインターンを経験したいと思わせる状況を、作ることができた。

この講演をきっかけにインターンをしたい、国際的に働いてみたいと思うようになった学生が、半数から3分の2を占めた為、講演会やJ-BINGOに関する授業内の説明が効果的である。

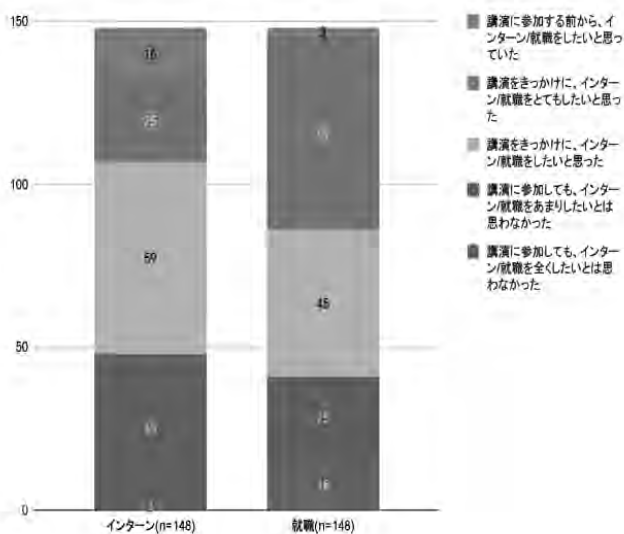


図2 国際機関でのインターン、国際機関や国際的なフィールドへの就職に対する考え

プロジェクト演習入門Ⅰの授業では、講演会における講演部分を録画して視聴させたため、本プロジェクトに関する説明が十分とは言えない状態だったが、多くの学生が興味を持った。事前にJ-BINGOについて説明することで、更に興味を引き出すことができると考えられるので、次回開催の際の参考としたい。

また、J-BINGOはプロジェクト演習入門において、最初から課題を与えられ、グループ毎に課題解決の方策を考える他のテーマとは異なり、課題設定から自分たちで必要があるため、難しい、大変であるという印象を学生が抱きやすい。そのため、志望者も元から国際的な知見がある学生や留学生が多い。今後は、学生の国際的な知識が身につくような取り組みやマニュアルが作成されると、より多くの学生がJ-BINGOに対して興味を持ち、志望者も増えると考えられる。

近年、新型コロナウイルス感染症の拡大により、学生の留学志向が低下している傾向が続いていたが、通常の生活を取り戻してきたことで、留学だけではなく、国際的なフィールドで働くことに関する意識が、向上している感がある。授業や講演会を通じ、J-BINGOプロジェクトに関する説明や、魅力を伝えていくことで、学生の国際機関や、国際的なフィールドでの仕事に対する、興味関心を引き出すことができると考える。

2-2. プロジェクト演習入門 Ⅰ／Ⅱにおける取り組み状況

2年次を対象とした取り組みとして、社会情報学部2年次以上が対象の前期科目「プロジェクト演習入門Ⅰ」及び、後期科目「プロジェクト演習入門Ⅱ」において、J-BINGOプロジェクトを選択テーマの1つにした。本年度は対面授業の形式で実施できたため、国際機関等でのインターンの実現に向けて、国際的に働くことを理解するための、テーマ選択や調査活動に取り組んできた。

具体的には教員のサポートを得つつ、自ら解決すべき問題を見つけ、在京国際機関やNPOなどへアプローチし、様々なヒアリング調査を実施した。その後、それらの成果を活かし、インターンや共同作業等を実践するためのプロジェクト素案を作成することが、最終目標である。

本年度は、前期は13名3グループ、後期は12名3グループの学生がJ-BINGOテーマを選択し、J-BINGOプロジェクトのメンバーとして活動した。

3グループの活動テーマと内容は以下の通りである。

1) 「食品ロスによる飢餓」

食品ロスが起きる原因や背景を、インターネットで調べ、発展途上国では生産過程にその原因があることを知り、その点に着目した。中でも、アフリカ最大の米の消費国であるナイジェリアに着目し、与件整理を行なった。すると、精米能力の不足やインフラの不足により、効率的な米の生産ができていないことが分かった。生産過程での食品ロスを減らすことで、安定した米の供給が実現できると考えた。そこで、食品ロスの現状を正確に把握し大学生による取り組みのアイデアを深めるためにヒアリングを実施した（図3参照）。



図3 JICA本部でのヒアリング調査の様子

2) 「ブルキナファソの学校教育」

学校に通えない子供の割合が他国と比較して、アフリカ諸国が大きいと知ったことをきっかけに、世界で最も貧しい国の1つであるブルキナファソに着目した。日本ブルキナファソ友好協会が、ブルキナファソにおいて広く教育問題に取り組み、支援を行っていることに着目し、ヒアリング依頼を行った。また、ブルキナファソにおける、教育問題の認知度が低いことが問題であると考え、ポスターを作成して情報発信を促し、ブルキナファソの教育の現状について、知ってもらう取り組みを実施した（図4参照）。



図4 ブルキナファソにおける教育の現状を伝えるポスター

プロジェクト演習入門Ⅱの履修者120人を対象に、ブルキナファソの教育の現状の理解度と、教育ボランティアへの関心を調査する目的で、アンケートを実施した。前述のポスターを見る前と見た後では、ブルキナファソの教育の現状の理解度と、教育ボランティアへの関心が高くなったことから、ポスターなどで情報発信を行い、関心を持ってもらうことが重要であると結論付けた。

日本ブルキナファソ友好協会には、2025年1月に対面形式でヒアリング実施予定である。与件整理やポスターの作成を通じて得た知見を元に、有意義なヒアリング調査となることを願う。

3) 「アジアの児童労働問題」

日本との繋がりが深く、地理的にも近いアジアの児童労働問題に着目した。児童労働問題を学生に周知する方策として、フェアトレード商品の普及という点に焦点を当てて活動を実施した。また、児童労働の実態と解決策に関する情報収集を目的として、NPO ハロハロとILOを対象にヒアリング調査を実施した。

ヒアリング調査から、得られた知識を広めると同時に、アジアの児童労働問題について考えてもらうべく、学内にてワークショップを開催した。QRコードから、学生が、プログラミングで自作したフェアトレードに関するクイズに回答してもらい、正答率が80%以上の参加者にフェアトレード商品である、マカロンを配布した（図5、6参照）。



図5 ワークショップのフライヤー



図6 ワークショップの様子

プロジェクト演習入門Ⅱでは、国際機関へのインターンに向けてヒアリングを行うことが、大きな目的で、ワークショップ等は義務ではないが、ヒアリングを行って得られた知識を広めたい、役立てたいという学生の積極的な姿勢から、実施の運びとなった。ワークショップのためのフライヤーやクイズの作成、日程調整、当日のセッティング等、全て学生が主体となり行ったもので、かなりの時間を割いたと思われる。J-BINGO では、問題設定からゴールまで自分たちで行い様々な機関にアプローチするため、意欲次第ではあるが、社会人となった時に役立つスキルも身に付けることができる。ワークショップの参加者からも多くの好評を得たため、今後も継続してワークショップを実施していきたい。

本年度は、コロナ禍が落ち着いてきたため、ヒアリング調査は対面、オンラインどちらでも対応できるように指導したが、年明けに実施予定のものも含めると、対面で4件のヒアリングが行われることとなる。昨年度は対面での実施が1件だったため、今後も対面でのヒアリング調査が増加すると見込まれる。しかし、相手の都合に合わせられるよう、次年度以降も対面とオンラインどちらの方法でも対応できるように、指導を続けていくことが望ましい。本年度は3グループ全てで、対面でのヒアリング調査を実施できたため、学生にとっても学外で学ぶ良い機会となった。

2-3. J-BINGO オンラインゼミの実施

授業での取り組みと並行して、毎月2回程度、「プロジェクト演習入門Ⅰ／Ⅱ」、「ゼミナールⅠ／Ⅱ」において、J-BINGO テーマを選択した学生が集まり、J-BINGO オンラインゼミを水曜6限に開催している。ゼミの時間に、調査の進捗状況や活動内容等を報告することで、随時、他学年のメンバーや教員からのフィードバックを受けながら、活動を進めてきた。各授業時とは異なり、他学年の報告を聞くことは、お互いにとって刺激になったと考えられる。本年度は、3年次から2年次に対するアドバイス指導が、多く見受けられた。学年を超えての繋がりができることは学生の成長、J-BINGO の発展共に大きなプラスとなる。

こうしたゼミは、コロナ禍以前には対面形式で実施してきた。しかし、大人数の学生が集まり議論をすること、放課後（5限の後、授業時間帯としては6限）に実施していること、経済産業省職員でもあるゼミ担当教員の移動時間を節約できるというメリットもあり、引き続きオンライン形式で開催することとした。

3. 今後の実施方針

本年度、J-BINGO プロジェクトに関連する授業は、対面とオンラインで行った。それぞれにメリットがあるため、今後もこの2つの方式を用いて実施する方向である。

本年度の講演会は、2回とも日本国内からオンラインで行われたが、オンライン形式である利点を活かせば、世界中のあらゆるところで活躍されている職員の方に現地からご講演頂くことも可能である。J-BINGO プロジェクトのOB・OGの講演会を希望する学生も多かったため、今後は検討していきたい。コロナ禍でやむなく始まったオンラインであったが、J-BINGO の活動にはメリットも多く、これからもこの良さを活かして活動が続けたい。

将来的に、国際機関で活躍する人材を増やすことを目的とする J-BINGO としては、なるべく国際的に活躍する自分をイメージして、それに向かってより充実した学生生活を送ってほしい。来年度以降、J-BINGO プロジェクトを、国際政治経済学部と社会情報学部の相乗り科目とする計画を立てている。実現すれば、キャンパスと学部を横断しての実施となるため、縦の繋がりだけではなく、横の繋がりも強化できると考える。

2年次の J-BINGO プロジェクト参加者の中に、来年度も J-BINGO への参加を希望する学生がいるため、その希望者については、飯島ゼミナールに所属する形で研究を実施する運びとなった。

今後、J-BINGO を希望する学生を増やすために、プロジェクトに関する説明だけに留まらず、OB/OG に、J-BINGO での経験がどのように就活や社会人生に役立っているかを話してもらうなど、卒業後をイメージできるような企画も検討の余地がある。

プロジェクト演習入門Ⅰ／Ⅱでは、従来通り、国際機関等でのインターンの実現に向けて、国際的に働くことを理解するための調査活動に取り組んできた。国際貢献に向けて、本年度は、国連機関や NPO の皆様

のご協力を得て、オンライン及び対面によるヒアリング調査が実施された。さらに、国際的課題についてどのように対応すべきかを検討し、ワークショップの開催等、前向きな一定の成果を得られたと考えられる。

来年度、3年次ではプロジェクト演習入門Ⅰ／Ⅱで扱ったテーマについて、飯島ゼミナールにてより深い研究がなされる予定である。4年次及び修士2年次では、本年度の英文での履歴書作成やインターンなどの活動成果を元に、飯島ゼミナールにて論文の執筆がなされる予定である。前述のように、意欲ある2年次が、プロジェクト演習入門Ⅰ／Ⅱにおいて、大変積極的に活動し、J-BINGO の継続が決まっている学生もいるため、3年次となる来年度の活動に期待ができる。継続的に J-BINGO が発展していけるよう、学部を超えての活動や、海外研修への資金的援助に関する取り組みも強化し、裾野を広げていくことが望まれる。今後は、他学部との連携の模索等を経て、将来的には、本学が関係機関の結節点になれるような活動を進めたい。

謝辞

本年度、講演会にてご講演頂きました UNIDO の村上様、UNDP の近藤様、ヒューマンリンク株式会社の近江様に、感謝の意を表します。また、ヒアリング調査にご協力頂きました UNIDO、UNDP、JICA、ILO、NPO ハロハロ、JBFA の皆様方に、感謝の意を表します。

なお、本研究は社会情報学研究センターによる研究プロジェクト「J-BINGO in AGU: Japan Bridge for International Governmental Organization in AGU」の成果の一部です。

参考文献

- [1] 青山学院大学 社会情報学部 J-BINGO プロジェクト「青山学院大学 社会情報学部 J-BINGO プロジェクト」, 2019 年, <http://www.cc.aoyama.ac.jp/~j-bingo/jbingo.html>, Accessed.2021.12.16.
- [2] 青山学院大学 社会情報学部 J-BINGO プロジェクト「青山学院大学 社会情報学部 J-BINGO プロジェクト 公式 Instagram」, <https://www.instagram.com/j.bingoinsta2021/>, 2021 年, Accessed.2021.12.23.
- [3] 飯島泰裕, 米山明日香, 菊川人吾, 上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO at AGU」『青山社会情報研究』第 8 巻, 2016 年, 75-78 ページ.
- [4] 飯島泰裕, 米山明日香, 菊川人吾, 上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO in AGU」『青山社会情報研究』第 9 巻, 2017 年, 63-67 ページ.
- [5] 飯島泰裕, 米山明日香, 菊川人吾, 上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO in AGU」『青山社会情報研究』第 10 巻, 2018 年, 78-83 ページ.
- [6] 飯島泰裕, 米山明日香, 菊川人吾, 上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO in AGU」『青山社会情報研究』第 11 巻, 2019 年, 58-65 ページ.
- [7] 飯島泰裕, 米山明日香, 菊川人吾, 上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO in AGU」『青山社会情報研究』第 12 巻, 2020 年, 86-92 ページ.
- [8] 飯島泰裕, 米山明日香, 菊川人吾, 上野亮「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO in AGU」『青山社会情報研究』第 13 巻, 2021 年, 58-65 ページ.
- [9] 飯島泰裕, 米山明日香, 菊川人吾, 中村厚子「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO in AGU」『青山社会情報研究』第 14 巻, 2022 年, 43-49 ページ.
- [10] 飯島泰裕, 米山明日香, 菊川人吾, 柴田みすず「The Japan Bridge for International Governmental Organizations: J-BINGO in AGU」『青山社会情報研究』第 15 巻, 2023 年, 77-85 ページ.